

お遍路修行者(その七)

みやたすすむ

お遍路は昔、弘法大師(空海)が修行された足跡をたどって、お寺を巡拝することだといわれています。ちなみに、前にも書いたことがあるかもしれませんが、弘法大師が、洞窟に入って修行をした時に、そこから見えるのは空と海しか見えないので名前を空海と名付けたと先人から聞いた事があります。

そしてこの四国のいちはんの霊山寺(りょうぜんじ)から八十八番目大窪寺(おおくぼじ)までの総距離は約一四〇〇km、東京の日本橋から九州の熊本までです。この距離を歩くとい人でも三十日、普通の人で四十日ほどとされています。すこし横道にそれますが、このお遍路はどこから始めても、どこで終わってもいいそうです。そして何年かかってても良いとの事。

お遍路は白装束を着て歩いているイメージですが、バス、タクシー、マイカー、バイク、自転車、など移動手段は何でも構いません、と言うそうです。只、忘れてはいけない事はお寺で心をこめてお参りをして心身を磨く修行をする事だけは心に留めておくように言われました。常日ごろお寺とは無縁の生活をしている者にとっては耳の痛い話です。

余中、野鳥が手の平からひまわりの種を食べている事に出会いました。中野さ

んに聞くと「やまがら」と教えてくれた。この「やまがら」は人間になつきやすく、ちよっとした芸をしこむと、その通りに動くとの事、こうして自然の中で野鳥に餌づけをしているのを初めて見た。ここにも四国の人の心のおおらかさを見た思いでした。

話を元に戻しますが、お金は一日一万円くらい、宿賃、交通費、昼食代、飲み物代金、等、おおよそですが、このぐらのお金が必要ですが、こんな大金は私達にはありませんから、ひとつのお寺で巡拝が終わると、カーナビに次のお寺を打ちこんで、すぐに出発。途中の名所や温泉なども目もくれずに次のところに急いだ。もう少しゆっくりしてもいいのではないかと思うのですが、いざその場に行くとカーナビの言う通りに動いている。

四国の徳島県を(一)番寺から三十三番寺まで(二)発心の道場、高知県(二十四)番寺から三十九番寺まで(三)修行の道場、愛媛県(四十)番寺から六十五番寺まで(四)菩提の道場、香川県(六十六)番寺から八十八番寺まで(五)涅槃(ねはん)の道場と言ひ伝えられて、仏教の悟りの境地を世界観を絵図にした退蔵界曼荼羅(たいそうかいまんだら)になぞらえたそうです。

ここまでになると私には何の事かさっぱりわからない、わかった事は、私はまだ修行が足りないという事だけは理解しました。

以下、次号



2月11日(土)

「ブランチたかやま」  
すみません! ゲレンデが  
変更になりました。  
担当: 早川  
(090-1785-3489)  
メールでお願ひします。

東海B 2月25-26日  
ポール練習  
「野麦峠」  
担当: 長島  
(296-3078)

3月12日

「車山」  
担当: 上田  
(257-3204)

東海B 3月11-12日  
競技会第2戦  
「野麦峠」  
担当: 長島  
(296-3078)

春スキー  
3月18-19日  
「赤倉」  
担当: 神山  
(271-7374)  
x切: 2/25

八方尾根  
ツアー

4月8-9日  
x切: 3/11  
担当: 神山  
(271-7374)

次回例会  
3月4日(土)  
アイセル21  
PM 6:30~

